

ほーるめいと

わたしたちの神戸文化ホール!

情熱が交差する
コンクールの聖地



初めての吹奏楽の公演デビューから最高峰のダンスの舞台まで。開館以来、神戸文化ホールは神戸市民を中心とした皆さんの人生を恵いた本番の舞台であり、成長を見守り続ける特別なホームグラウンドであり続けています。世代もジャンルも超えて、熱い想いがぶつかり合うコンクールの聖地・神戸文化ホールで今、そのドラマの幕が上がります。

本大会がつなぐ未来と絆

毎年夏、神戸文化ホールは全国から集う中高生ジャズマンたちの熱気と興奮に包まれます。全国の学生ビッグバンドが一堂に会する「JAPAN STUDENT JAZZ FESTIVAL (SJF)」が奏でる若さあふれるスウィングと、一音入魂のソロプレイは、聴衆の心を揺さぶり続けてきました。プロのミュージシャンにも胸が震えると言わしめるこの大会は、今やプロへの登竜門としても全国に名を轟かせています。この大会はいかにして生まれ、いかにして若きジャズマンが一生に一度は夢見る「最高の舞台」となったのでしょうか。

世界へ羽ばたくジャズ奏者へ

本大会は、1985(昭和60)年にわずか8団体からスタートしました。創設メンバーの一人である日本学校ジャズ教育協会(JAJE)関西本部理事長の目下雄介先生は、吹奏楽指導の傍ら「この素晴らしい音楽を子どもたちに伝えたい」と、1970(昭和45)年頃から当時珍しかったジャズ教育を神戸で開始しました。目下先生がこだわったのは、単なる発表会に留まらない「評価」の場を作ることでした。「一生懸命頑張った子ども

ジャズをやるなら文化ホール

もたちに実績という“お土産”を持たせてやりたい」という熱心から、国内外の著名な音楽家や、世界最高峰であるパークリー音楽大学の教授を審査員として招き、第14回から「パークリー音楽大学賞」を設立。この厳格で権威ある評価システムが大会の価値を劇的に引き上げ、音楽大学への推薦の実績としても認められ、プロ奏者への登竜門としての地位を確立させたのです。

学生同士の熱い交流の場としてのSJF

本大会が持つもう一つの大きな魅力は、学校や地域の垣根を越えた学生同士の熱い交流です。広島・尾道工業高校出身で、現在はジャズサクソフレイヤーとして活躍する高橋知道さんは、当時中学生だった広瀬未来さん(ジャストランベッ

トプレイヤー・甲南中学校・高校出身)と、この大会で出会います。インターネットやSNSがない時代。参加校の学生たちは、配られたパンフレットのメンバー表や録画したビデオを隅から隅までチェックし、他校の凄腕プレイヤーの名前を暗記していました。そんな中、初めて大会に出場し、極度に緊張していた広瀬さんのもとに、面識のなかった高橋さんが「うわー! 広瀬じゃー!」と駆け寄ってきたのです。そこから交流が始まり、ジャズのCDが手に入りやすくなった当時、高橋さんは青春18きっぷで神戸まで足を運び、広瀬さんの先輩の家に泊まり込んでカセットテープに音源をダビングしたと言います。こうした音楽を通じたビュアで強烈なコミュニケーションが、この大会を単なるコンテストではなく、一生の仲間と出会う場にしていました。

次世代へ受け継がれるスウィング

かつて「パークリー賞」を受賞し、神戸から世界へと羽ばたいた高橋さんと広瀬さんは、現在、大会を支える側に戻っています。画面越しで何でも手に入る現代だからこそ、同じ空間で息を合わせ、生の音をぶつけ合い、直接会話を交わすことの価値は計り知れません。学生たちのひたむきな情熱と、それを温かく見守る指導者やOB・OGたちの紳。神戸文化ホールの極上の響きとともに、青春のジャズはこれからも、新たな世代へと力強く受け継がれていくことでしょう。

世界への翼、パークリー賞



全日本高校・大学ダンスフェスティバルと神戸市のあゆみ

高校・大学で創作ダンスに取り組む全国の学生が神戸文化ホールを目指して集結する「全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)」は1988(昭和63)年から続く、真夏の風物詩。セミの音が街に響く頃、神戸文化ホールは独特の熱気に包まれます。高校生、大学生が自ら振り付けを考え、衣装を整え、限られた時間の中で全力を出し切るこの大会は、異なる競技会を超えた教育と芸術の融合の場として長年愛され、今年、2026(令和8)年の夏で第38回大会を迎えます。

1988(昭和63)年、第1回大会が開催されるに至った背景には、当時の神戸市が掲げていた「若者のまち・神戸」というビジョンや、1985(昭和60)年のユニバーシアード競技大会を通じたスポーツ・文化振興の流れがありました。当時、日本女子体育連盟の理事長であった松本千代栄先生は「子どもたちが一生懸命に創作したものを発表し、互いに高め合える全国規模の場が必要だ」という強い想いを抱いており、長年の信頼関係があった神戸市と手を取り合うことで第1回大会が実現したのです。

「踊る・創る・観る」で 高みと広がり共存 深まる交流



「高み」と「広がり」が共存する2部門制

本大会の最大の特徴は、2部門制であること。創作コンクール部門は技術に加えて、作品の獨創性や構成力がより問われ、「生き生きとした生命力あふれる表現」や「クロスカルチャーへの新しい挑戦」など独自の審査基準で賞が設けられています。審査では、舞踊の専門家だけでなく、体育学関係者、音楽家やプロデューサーなど多角的な視点を入れており、文部科学大臣賞を頂点に、各校の個性を尊重した評価が行われています。一方、ダンスのジャンルを問わず、「踊ることの根源的な喜び」や「新しい表現への挑戦」から生まれたダンスを披露できるのが参加発表部門です。この両輪があるからこそ、ダンス経験の浅い学校からプロ顔負けの技術を持つ学生まで、幅広い層が「神戸」を目指すことができるのです。垂直方向に創作の深さを追求する「高み」と、水平方向にダンスの裾野を「広げる」ことの共存を説いた、松本先生のスピリットが第1回から現在に至るまでこの大会に根付いています。

全日本 高校・大学 ダンスフェスティバル (神戸)



撮影:フォトスタジオハホ

創作ダンスに取り組んでいる全国の学生にとり、「神戸」といふのは神戸文化ホールであり、創作ダンスの聖地なんですよ。新神戸駅からのアクセスも極めて便利で、市庁舎や市役所、神戸文化ホールが連携して大会運営が叶っている。聖地の良さを最大限に生かすべく、市の温暖な受け入れもあり、神戸だからできる、まわってきた大会です。プロにはない、学生ならではの情熱と、それを温かく見守る指導者やOB・OGの存在が、この大会を特別なものにしています。

時代が移り変わっても、この大会の根底に流れる「自分たちだけの表現を創りだす」という情熱は変わりません。仲間たちと一緒に、ぶつかりながらも1つの舞台を支え上げたい。卒業後の長い人生を支える糧ともなり、この大会がきっかけで、夢を追いかけて、まっすぐ参加してみたい。ホームページをご覧ください。

細川 江利子先生
(日本女子体育連盟会長)

福井 みどり先生
(兵庫県女子体育連盟会長)

History

1940年代 松本千代栄先生らが中心となり、戦後の学校教育における創作ダンスの教育的価値を提唱。全国への普及活動を開始。

1948年 神戸市は教育委員会や体育教員たちの熱意が高く、早くから松本先生による講習会を継続的に実施。創作ダンス指導のモデル地域的存在に。

1973年(昭和48) 神戸文化ホールが開館。

1980年代半ば 1985年にユニバーシアード競技大会が開催される。「若者の街・神戸」という都市イメージの形成を目指し、若者の文化・スポーツ支援がさらに加速。

1987年 最高の舞台を探していた日本女子体育連盟と長年の講習会を通じて培われた神戸市教育委員会との絆が実を結び、全国大会開催に向けた協定が結ばれる。

1988年 第1回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)が開催。

「僕らの高校は、この大会に出るために部活をやっていたんですけど、前日は部活がないから練習しました。神戸文化ホールはジャズを志す学生にとって聖地であり、僕たちにとっての原点です。今は審査員として関わっていますが、学生たちのこの舞台に熱い思いが乗って、素晴らしい演奏を聴くと、自分の青春時代と重なって胸が熱くなります。」

「プロになったとしても、この大会に立つと、昔の自分が蘇ります。学生時代代り合った仲間たちが卒業後もOB・OGハンズオンして、大会のゲスト演奏やサポートしてくれる。この大会が僕たちにとって、いかにも大切なものであることを物語っています。」



高橋 知道さん
(ジャズサクソフレイヤー)

目下 雄介さん
(日本学校ジャズ教育協会(JAJE)関西本部 理事長)

広瀬 未来さん
(ジャストランベップレイヤー)



神戸に響き続ける、“みんなの吹奏楽”

01

半世紀続く、市民のための音楽祭

神戸市内で活動する学校(小・中・高校・大学)のクラブや一般の吹奏楽団が日頃の練習の成果を披露するコンサート、110回以上の公演の歴史を重ね、世代を超えた音楽の喜びが交差する、神戸市民のための音楽祭の魅力に迫ります。

第110回 神戸市吹奏楽祭

主催/神戸市・神戸市教育委員会・神戸市吹奏楽連盟・神戸市民文化振興財団



第110回 神戸市吹奏楽祭

主催/神戸市・神戸市教育委員会・神戸市吹奏楽連盟・神戸市民文化振興財団

神戸文化ホールで年に2回開催されるこの祭典は、季節によってステージの顔ぶれが変わるところも魅力の一つです。春はほとんどの出演者が中学生で占められ、よりフレッシュで初々しいステージが見どころです。一方、秋の音楽祭は高校生や大学生、そして一般の社会人バンドの出演が多くみられ、より円熟味のある演奏を楽しめます。シビアな勝負を競うコンクールとは異なり、客席から送られる温かな拍手は学生たちにとって大きなモチベーションに、そして大人の一般バンドにとっては神戸文化ホールの舞台上で演奏を披露することそのものが大きな喜びとなっています。

03

全国大会が行われた憧れの舞台での演奏

神戸文化ホールの大ホールは、開館翌年の1974(昭和49)年に「第22回 全日本吹奏楽コンクール 全日本大会」が行われた吹奏楽コンクールの聖地とも言える場所。「全国から代表校が集結して頂点を競い合ったこの場所で、市民の恒例行事として楽しみながら演奏ができるのはとても素晴らしいことです」と浅井さん。吹奏楽や音楽を愛する神戸市民が集う場として、これからも神戸市吹奏楽祭の歴史はまだまた続いていくことでしょう。

第119回 神戸市吹奏楽祭

日時 | 2026年4月29日(水・祝) 10:30~19:00
場所 | 神戸文化ホール 大ホール
料金 | 入場無料

02

あの日のステージが今の自分を作る

立派なホールで演奏した記憶は、若き演奏家たちの心に深く刻まれます。学生時代にこのステージを目指し、大人になっても市民バンドとして再びこの場所へ帰ってくる人も少なくありません。「高校生の時に出演した神戸市吹奏楽祭のステージを覚えています。この経験が今に繋がっていると感じています」と語る、神戸市吹奏楽連盟の理事長もまた、このホールに携わる浅井浩之さんをはじめ、音楽を愛する神戸市民にとって、神戸文化ホールは終わらない青春のホームグラウンドなのです。

01

コンクールを「コンサート」に変える神戸の温もり

世界的なコンクールでありながら、この大会には神戸らしい温かさが溢れています。海と山に囲まれた穏やかな街の空気は、音楽家が内面と向き合うための理想的な環境だと言います。そして何より、出場者を支えているのが市民の存在です。第一次審査から熱心に応援する市民の姿があることで、「コンサート」のような空気が生まれています。音楽を競いながらも「届ける」という環境が整い、審査員だけでなく観客と音楽を共有できるという雰囲気、演奏者自身の表現を引き出す大きなポイントとなっています。また、出場者による学校へのアウトリーチ活動や優勝者の凱旋リサイタルも合わせて、美しい音色はホールを飛び出し、音楽を通じた共生社会の実現にも繋がっています。

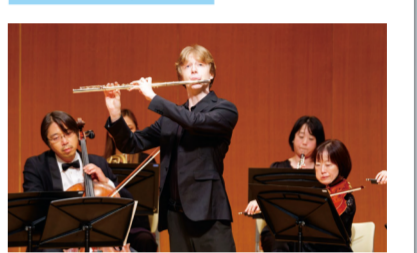
02

世界中が目指す、フルート界の“ワールドカップ”

1985(昭和60)年のユニバーシアード競技大会の神戸開催を契機に、「音楽のまち神戸」を象徴する国際文化イベントとして創設されました。創設から40年の時を重ねるなかで、フルートに特化した世界でも稀な国際コンクールの地“Kobe”として世界中に広くその名を知られるようになりました。エマニュエル・パコやエミリー・バイノンなど名だたる奏者を輩出してきたこのコンクールは、才能ある若手フルーティストたちの登竜門として世界的に高く評価され、「このコンクール出場を夢見ていた」と多くの出場者が口にするほど、世界中のフルート奏者にとって憧れの舞台となっています。

check

第11回神戸国際フルートコンクール
第1位記念
ファビアン・ヨハネス・エッカー
フルートリサイタル



日時 | 2026年10月18日(日)
開演14:00
場所 | 神戸文化ホール 中ホール
料金 | 【全席指定】一般3,000円、U25(25歳以下)1,000円
※2026年6月頃にチケット発売予定。
※U25(25歳以下)チケットは神戸文化ホールプレイガイドのみ取り扱い。
入場時に年鑑が提供できる証明書の提示が必要
問合せ: 神戸文化ホールプレイガイド
078-351-3349(10:00~17:00)
月曜定休※祝日の場合は翌平日が休業

03

人生のターニングポイントとなる舞台

過去の出場者や、今や世界的なスター奏者となっている歴代の優勝者たちから、「神戸文化ホールへの道中やホールを見ると、当時の思い出や気持ち、緊張感などが一気によみがえってくる」という声がよく聞かれます。極限のプレッシャーの中で立った舞台は「人生のターニングポイント」として語られ、コンクールを通じたフルーティスト同士の出会いや市民との交流を含めて特別な経験として記憶に刻まれています。これから世界に羽ばたく若者たちの出発点として、並みならぬ緊張感や一瞬に輝いた美しい音色を、神戸文化ホールは、長年に渡って受け止めてきたのです。

世界最高峰の音楽と市民の温かさが交差

1993

(平成5)

街全体がステージに変わった日。

1993(平成5)年の春、神戸の街はかつてない熱気にあふれていました。4月1日から半年にわたる「アーバンリゾートフェア神戸'93」が開幕。特定の巨大なパビリオンを持たず、ハーバランドなどははじめとする市内全域を舞台にした「会場のない博覧会」という前代未聞の試みでした。
午前0時に行われた開幕式には深夜にもかかわらず約3万5,000人もの観衆が殺到。最終的に約1,635万人を動員したこの祭典は、市民自らが主役となって街を楽しむ「市民参加型」のカルチャーを神戸に深く根付かせる転換点となりました。そんな中、神戸文化ホールは開館20周年を迎えたのです。



大倉山で交差した、一流の芸術と市民の熱量。

街中が新しい都市像に沸き立つ中、大倉山でもその熱量に呼応するような歴史的な1年が刻まれていました。
スローガン「一流の舞台を一人でも多くの人に」を体現すべく、神戸文化ホールの開館20周年特別企画として、チャイコフスキー没後100年記念公演「サントペテルブルク・フィルハーモニー交響楽団」や「ロシア国立ポリショイバレエ」など、世界最高峰の芸術家たちが大倉山の舞台を飾りました。
同時に、市民も表現者として躍動した一年でもありました。8月はホールを市民に開放し、文化・創造活動の場を提供。また5月には、フェアの一環として歌劇「カルメン」を上演。一般公募で集まった年代も職業も多様な市民たちが、プロの音楽家たちと一丸となって本格的な舞台を創り上げ、「市民による市民のための手づくりオペラ」を実現させたのです。
一流の感動と市民の喜びが交差する9月30日。フェアのクロージングセレモニーが当ホールで開催され、開館20周年のモニュメントとして「文化の灯」が点火されました。現在へ続く「市民の文化拠点」の象徴として、今も永遠の火を燃やしています。



希望と熱狂に沸いた年。時代の熱気が息づく中で迎えた20周年。

1993(平成5)年。テレビでは皇太子さまと雅子さまの華やかなご成婚パレードが中継され、最高視聴率は30.6%を記録。日本初のプロサッカーリーグ「Jリーグ」の開幕に日本中が熱狂し、空前のサッカーブームが巻き起こっていました。首都圏では巨大なレインボーブリッジが開通するなど、バブル崩壊後の不況が影を落としながらも、人々の心には新しい時代への期待と明るいエネルギーが満ちていました。開館20周年を迎えた大倉山の舞台にも、そんな前向きな時代の熱気と市民の情熱が確かに息づいていたのです。

ひと幕 神戸の記憶

参考資料: 写真「神戸文化ホール20周年記念誌 20年のあゆみ」(発行:開館50年11月/神戸文化ホール)

神戸文化ホールの舞台裏

2026年2月、50周年事業の集大成として舞台「流々転々 KOBE 1942-1946」が上演されました。どのようにして舞台ができあがるのですか? また「生の舞台の魅力」について教えてください。



舞台芸術を愛するチーフプロデューサー 岡野 亜紀子さん
舞台鑑賞は、一度その面白さにはまると、どんどん見たいもの。初めての観劇はぜひ神戸文化ホールで。素敵な演出をご用意してお待ちしています。

わからないを楽しむのも舞台の魅力
「これはどういうことだろう」と考えながら受け止めるのも、舞台の魅力です。今回は言葉だけでなく、身体や空間、音だけで表現される世界に戸惑うこともあったかもしれませんが、その違和感こそが生の舞台の醍醐味です。まずは一度、劇場で体験していただければ幸いです。

神戸に住む人の空気感を落とし込んでゼロから神戸の物語を立ち上げました。

2022年夏に旧知の演出家・小野寺修二さんとの再会から本作は動き始めました。集客の難しさという課題もありましたが、小野寺さんを尊敬している俳優の鈴木浩介さんの出演が決まり、作品を前に進める大きな力となりました。
原作「神戸・続神戸」を単にご当地ネタとして扱うのではなく、作家や演出家が実際に街を訪れ、人々の様子や
みんなでアイデアを出し合いながら稽古が進んでいきました。



撮影:井上嘉和



大倉山駐車場 神戸文化ホール すぐ目の前!

☎078-382-0823

■営業時間/24時間
■駐車料金/30分まで150円(以後10分ごと50円/7~22時)
■夜間料金60分100円(22時~翌7時)
1日最高1,020円
(入庫した日の24時まで)
クレジットカード・電子マネー 利用可能
※長さ5m、高さ2mを超える車は駐車出来ません。

K 神戸市道路公社 ☎078-583-0234
HP: https://kobe-toll-road.or.jp/

神戸文化ホール

〒650-0017 神戸市中央区袖町4丁目2-2

- 神戸市営地下鉄西神・山手線「大倉山駅」徒歩1分(新神戸駅より3駅7分)
- 神戸高速鉄道「高速神戸駅」徒歩8分
- JR「神戸駅」徒歩10分(大阪駅より新快速で25分)
- 神戸市営地下鉄海岸線「ハーバランド駅」徒歩12分

神戸文化ホール 大倉山駅前

市営地下鉄 大倉山駅
中央図書館
大倉山交差点
大倉山駐車場入口(中央体育館地下)
神戸地蔵
湊川神社
JR 神戸線
ハーバランド駅
高速神戸駅
湊川公園駅

舞台技術全般とイベント企画制作のトータルプロデューサーカンパニー

- イベントの総合企画・演出・運営
- 会場の設営・舞台装飾
- 看板の制作・施工
- 照明・音響・舞台美術の設計・操作
- 映像の収録・配信・制作
- 舞台機材、照明・音響設備の総合設計・施工 他

KISS 神戸国際ステージサービス株式会社
☎078-994-1855
本社/神戸市東区見津が丘1丁目16番地の2
https://kiss4u.co.jp